

〔6〕 高原町小体連 （学校数 4校 439名）

I 年間事業

回	月 日	内 容
第1回	5月26日（金）	役員選出、昨年度の引継ぎ、規約の確認、年間計画作成
第2回	6月23日（金）	本年度の研究について、水泳大会計画案検討
第3回	7月25日（火）	水泳大会前日準備・名簿作成等
第4回	7月26日（水）	水泳大会実施、賞状作成
第5回	8月29日（火）	水泳大会反省、陸上大会計画案検討、専門部会の報告
第6回	10月16日（月）	新燃岳噴火による降灰のため、陸上大会中止
第7回	10月17日（火）	新燃岳噴火による降灰のため、陸上大会中止
第8回	11月17日（金）	会計報告、研究関係
第9回	2月23日（金）	本年度の反省、次年度への引継ぎ

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会

- (1) 大会名 平成29年度高原町小学校体育連盟水泳大会
- (2) 実施日 平成29年7月26日（火）
- (3) 会 場 高原町立高原小学校プール
- (4) 出場者 高原町内各小学校5・6年生代表児童（延べ人数 約140名）
- (5) 実施種目
 - ・ 25m（自由形、平泳ぎ） ・ 50m（自由形、平泳ぎ）
 - ・ 200mリレー
- (6) 競技方法
 - タイムレースとする。
 - 出場は、リレーを除いて一人2種目まで参加可能とする。
 - 競技は、学年別、男女別を実施する。
 - 競技規則は、県小体連競技規則に準じ、細部については町小体連で定める。
- (7) 日 程

開会式	8:50	競技開始	9:10
競技終了	11:00	閉会式終了	11:30
- (8) 表 彰
 - 各種目3位まで表彰し、参加者全員に記録証を授与する。
- (9) 反 省

練習期間が少ないにも関わらず、参加児童は持てる力を精一杯発揮し、応援も大変盛り上がった。今年度は、各学校の先生方の指導のおかげで泳法違反がなく、また大会新記録が出るほどの素晴らしい大会であった。しかし、計時の役員の休む時間が無く、水分補給などの課題があった。

2 陸上大会

※ 本年度は、新燃岳噴火のため未実施。計画のみ記載。

- (1) 大会名 平成29年高原町小学校体育連盟陸上大会
- (2) 実施日 平成29年10月17日（火）
- (3) 会 場 高原町立高原小学校運動場
- (4) 出場者 高原町内小学校5・6年生児童（延べ人数 約140名）
- (5) 実施種目
 - ・ 一般走1000m（5・6年生男女） ・ 選抜走1000m（5・6年生男女）
 - ・ 800m走（5・6年生女子） ・ 1000m走（5・6年生男子）
 - ・ 400mリレー（5・6年生混合男女） ・ 走り高跳び（6年生男女）
 - ・ 走り幅跳び（5・6年生男女） ・ ソフトボール投げ（5・6年生男女）
- (6) 競技方法
 - 出場は、一人2種目まで参加可能とする。2種目出場の際は、トラック競技とフィールド競技の各1種目ずつとし、トラック競技のみ、あるいはフィールド競技のみ2種目とな

らないようにする。また、リレーに出場する場合のみ、3種目まで出場できるものとする。

- 競技は、学年別、男女別を実施する。
- 競技規則は、県小体連競技規則に準じ、細部については町小体連で定める。

(7) 日程

開会式	8 : 30	競技開始	9 : 00
競技終了	11 : 00	閉会式終了	11 : 15

(8) 表彰

- 各種目3位まで表彰し、参加者全員に記録証を授与する。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題・副題

「運動の楽しさに触れ、進んで体力の向上に取り組もうとする児童の育成」
～「できる」を意識したゲーム・ボール運動領域の指導を通して～

2 主題設定の理由

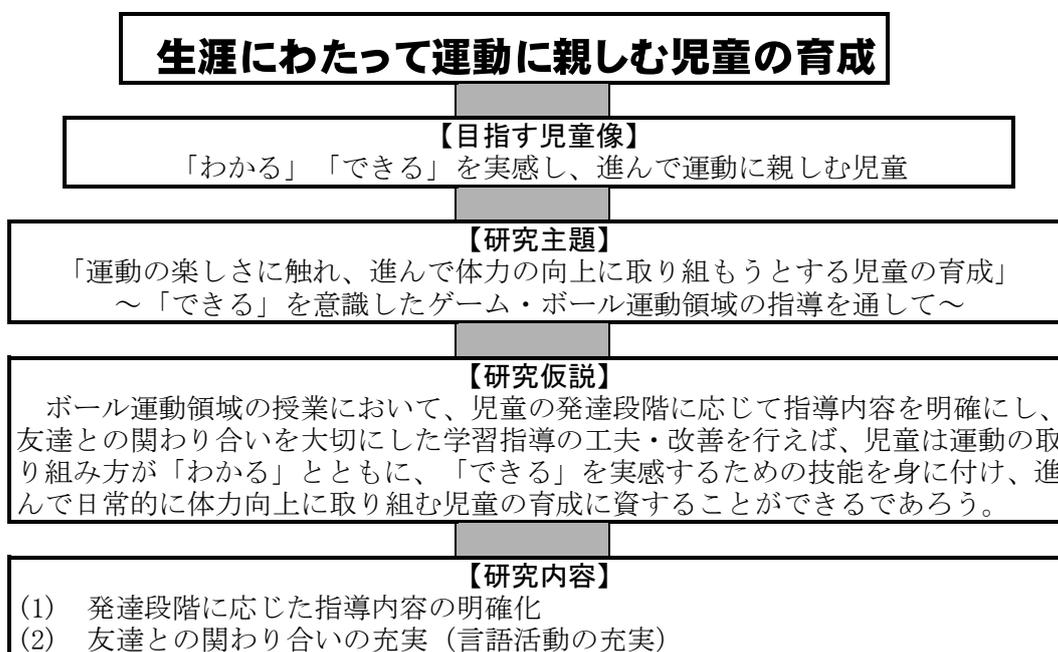
本町では、スポーツ少年団活動が盛んであり、例年、各団体で成果が報告されている。ところがその一方で、入団している児童と入団していない児童との運動技能の二極化が見られるとともに、例えば「野球を習っている児童は野球ばかりをしようとする。」など、日常的に取り組んでいる運動種目とそうでない種目との個人内での偏りも見られる。このような中、高原町小体連では「児童の体力の向上のためには、日頃の体育科学習の充実と、生活の中での日常的に体を動かすことが大切である。」とし、運動の課題を明確にし、友達とかかわり合いながら運動に取り組んでいくことを大切にした授業の工夫・改善について研究を積み重ねてきたところである。

特に来年度は、宮崎県学校体育研究会の発表開催地区でもあることから、本大会の研究の方針に沿って、発達の段階に応じた「わかる」「できる」「かかわる」授業の創造と展開を視野に入れた体育科学習の在り方について研究を進めることが求められる。

運動が「できる（技能）」という実感は、運動に「かかわる（態度）」ことや、運動が「わかる（知識、思考・判断）」ことに深く結びつくという大会基調の提案は、本町児童の課題とも直結するものである。

これらのことから、これまでの研究の成果を生かしつつ、運動への取り組み方や運動の継続の仕方が「わかる」ことと、運動の技能や動きが身に付き「できる」ようになるための指導方法の工夫について研究を進めることにした。

3 研究の全体構想



4 研究の実際

(1) 発達段階に応じた指導内容の明確化

【低学年の例】

○ ボール遊び

ア タグを使った鬼遊び

→ ボール運動の開いているスペースに走りこむ動きにつながる経験

イ ボールの工夫

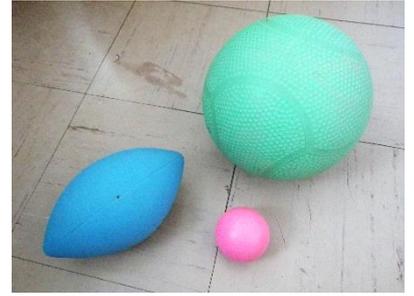
→ (ドッジボール、タグラグビーボール、小さいボール等) を使用して、ボールの特性に気付いたり、慣れ親しむことができたようにする。

ウ 投げる運動(動作)の具体的な指導の実施

→ 体を斜めにする感覚(体の軸を斜めにして、体重移動【後ろから前へ】)をつかむために、斜め後にいる人物からボールをもらってそのまま投げるようにする。運動量を確保し、感覚を身につけるために、1人1人が何度も練習できるようにする。

→ 小さいボールを使って、投げる動作を身につけるために「トントン、パーン」の合言葉で実施した。後頭部にボールを2回当てて(ひじが上がり、後ろに手とひじを引くようになる。)ボールを持っていないほうの手を前に伸ばし、その手にボールを持っている手が当たるようにする。(投げる動き、投げた後の姿勢や視線をつかむことができる。)最初に、全員で動きだけを確認した後に、ボールを使って実施する。

→ 上記の内容を指導することで、ほぼ全員の児童が徐々に長い距離を投げるようになる。



【中学年の例】

○ 導入段階で、ハンドボールゲームの難しいところを考えさせた。それを基に、ねらい1では、「パス」「キャッチ」「シュート」「マークがないところへ動く」4つの技能を取り入れた学習計画を立てた。児童が見通しをもって活動できるよう学習活動を明確化した計画と、自己の振り返りをするワークシートを作成し、課題意識をもたせて学習に取り組ませた。

学習目標	学習内容	学習活動	評価
ハンドボールの基本的な動作(パス、キャッチ、シュート)を習得する。	ハンドボールの基本的な動作(パス、キャッチ、シュート)を習得する。	ハンドボールの基本的な動作(パス、キャッチ、シュート)を習得する。	ハンドボールの基本的な動作(パス、キャッチ、シュート)を習得する。
チームの役割分担を明確にし、協力して活動する。	チームの役割分担を明確にし、協力して活動する。	チームの役割分担を明確にし、協力して活動する。	チームの役割分担を明確にし、協力して活動する。
ハンドボールのルールを理解し、守る。	ハンドボールのルールを理解し、守る。	ハンドボールのルールを理解し、守る。	ハンドボールのルールを理解し、守る。

- 1 タグラグビー
 - ・ 3対2
 - ・ 4対3
- 2 ハーフコートゲーム
 - ・ 3対2【キーパー無】
- 3 試合(5分×2回)
 - ※ 作戦タイム1分

【高学年の例】

○ ベースボール型

ア ティボールをもとに簡易化されたゲーム

→ 始めて野球をする児童にとっても楽しいゲームとなる。

<p>【方法】</p> <p>○ ティにセットしたボールを打ち、塁を回るとともに1点入るゲーム。</p> <p>※ 攻撃は、ボールを打った後、アウトになるまで塁を回り続ける。→運動量の確保。</p> <p>※ 守りは、打って走っている人を先回りして塁に入り、2人で「アウト」と言ったらアウトになる。</p> <p>※ 全員打ったら、攻守入れ替わる。→苦手な児童も活躍できる。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 打つ方は、ボールを打った後必ずバットをコーンに入れる。→安全面への配慮。 ・ ボールをキャッチした人は、投げて渡さなければならない。→投力を身につけるため。 ・ ホームベースでは、アウトにできないようにしておく。→打つ側と守る側の接触をさけるため。 ・ ベースと守備の位置の間隔をとる。→安全面への配慮。 ・ バッターは、打てるまで、フライでのアウトはしない。→全員が活躍できるようにするため。
<p>【準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ティ ・ ボール ・ コーン ・ ケンステップ (フラフープ) 	<p>【指導事項】 バッティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 軽くステップを踏んで、バットを平行に振る。 ・ 立つ位置は、ティのやや後ろ。左足がティと同じくらいで打つとよい。 ・ ティの高さは、児童のへその位置辺りがよい。

(2) 友達との関わり合いの充実 (言語活動の充実)

【中学年の例】

- ねらい2で、「パス」「キャッチ」「シュート」の技能の内、何がチームの課題について話し合わせ、自分たちで練習するまた、試合を取り入れ、作戦ボードを用いて、「マークがない所へ動く」を中心に作戦を立てさせ、試合に臨むようにした。



【技能を高める活動の様子】



【作戦を話し合っている様子】

5 研究の成果と課題 (○・・・成果、●・・・課題)

- 学習活動を明確化したことにより、児童主体となった学習をすることができた。
- ワークシートの活用により、技能一つ一つの課題を意識して学習することができた。
- ボールを持たない動き方についての話し合いが活発になった。
- 投げる技能や捕る技能は上手になっていったが、さらに継続して技能を高める必要がある。
- ボールを持っていない児童の動きを身に付けさせる「鬼遊び」やその他の運動を工夫して指導計画に位置づけていく。
- 運動量を確保するための効率的に短時間で話し合うことができる工夫を考える。

IV まとめ

水泳大会では、5・6年生の先生方を中心に、高原町内小学校の先生方と協力して運営していくことができた。今年度は新燃岳の噴火による降灰により、陸上大会は実施できなかったが、今年度計画したことを来年度に引き継ぎたい。

研究関係では、「できる」ことを意識した体育科学習指導を今後も継続して実践し、来年度の県学校体育研究発表大会につなげたい。